

Plat' Home

 TECHNOLOGY to serve you.

2023年3月期 第1四半期 決算説明資料

ぷらっとホーム株式会社
東証スタンダード 6836

2022年8月5日

ぷらっとホーム株式会社 会社概要

設 立：1993年3月

決算期：3月

上 場：東証スタンダード 6836

資本金：1億円

社 長：鈴木 友康

売 上：12億1,952万円（2022年3月期）

社員数：35人（2022年6月30日現在）

主な事業内容：

- IoTゲートウェイや各種ネットワークサーバー用途に最適な、Linuxを始めとするオープンソースソフトウェアを装備した自社製品コンピューターの開発・販売
- 自社製品を補完する商品を中心とした周辺機器/ネットワーク機器の販売
- 製品のリモート管理サービスやIoTコンサルティング・ソリューションなどのIoTサービス及び自社製品に係るサービス、保守の提供

当社ミッション

「自由で安全なコネクテッドワールドの実現」

ぶらっとホームの事業領域

当社ミッション「自由で安全なコネクテッドワールドの実現」

PHYSICAL WORLD



あらゆるデバイスをインターネットへ
取扱商品（センサー）の拡充

コア・コンピタンス
IoT事業

CYBER WORLD



デバイス管理・リモート管理
データ流通・伝送基盤

より利便性の高い社会の実現へ
地方公共団体・電力会社
交通・物流・公共施設

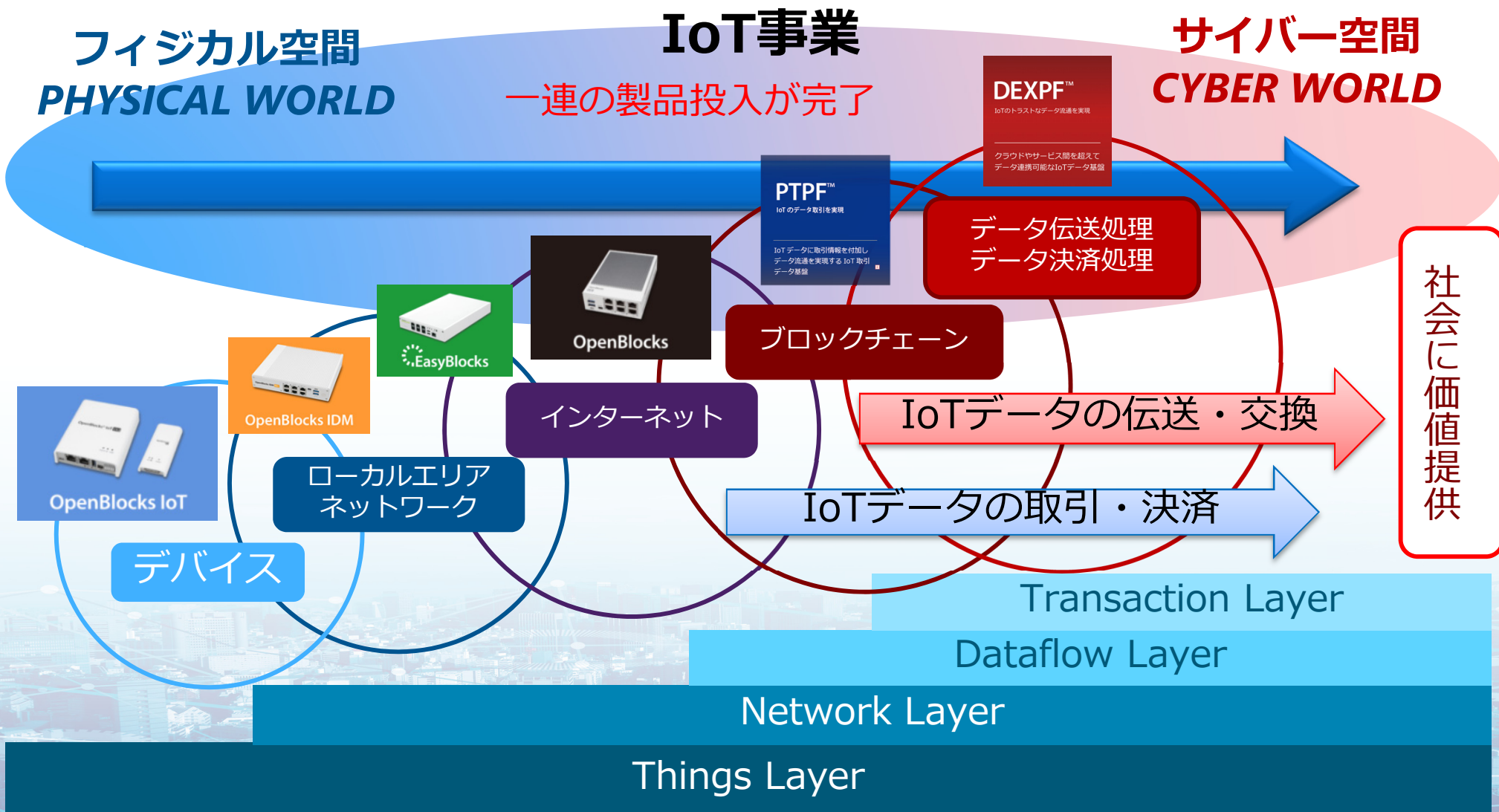
より豊かなくらしづくりの実現へ
ビルマネジメント・ビル設備・照明システム
自動車・エネルギー・各種製造業・建設業

より安全な社会の実現へ
地方公共団体・教育機関・医療機関
警備・保険・セキュリティ

当社が培ってきたIoT事業を核に周辺領域へ事業を拡大

ぶらっとホームの事業領域

「自由で安全なコネクテッドワールドの実現」



ぷらっとホームの製品ラインナップ

IoT・マイクロサーバー・ネットワーク製品



OpenBlocks

小型かつ堅牢
可用性の高いマイクロサーバー



OpenBlocks IoT

最先端ソフトウェアFWを搭載
したIoTゲートウェイ



EasyBlocks

シンプルに構築できる
ネットワークアプライアンス



OpenBlocks IDM

BIツール・ハードウェア一体型
IoT専用サーバー

IoTサービス・ソフトウェア製品



AirManage2

デバイスリモートマネジメントサービス

IoTゲートウェイをリモート
一括管理・制御・拡張

Plat'Home
IoT Gateway
Software
FW4

IoT センサー・デバイスとの
プログラミングレスを実現する
IoT ゲートウェイソフトウェア

IoTプラットフォーム製品

PTPF™

IoT のデータ取引を実現

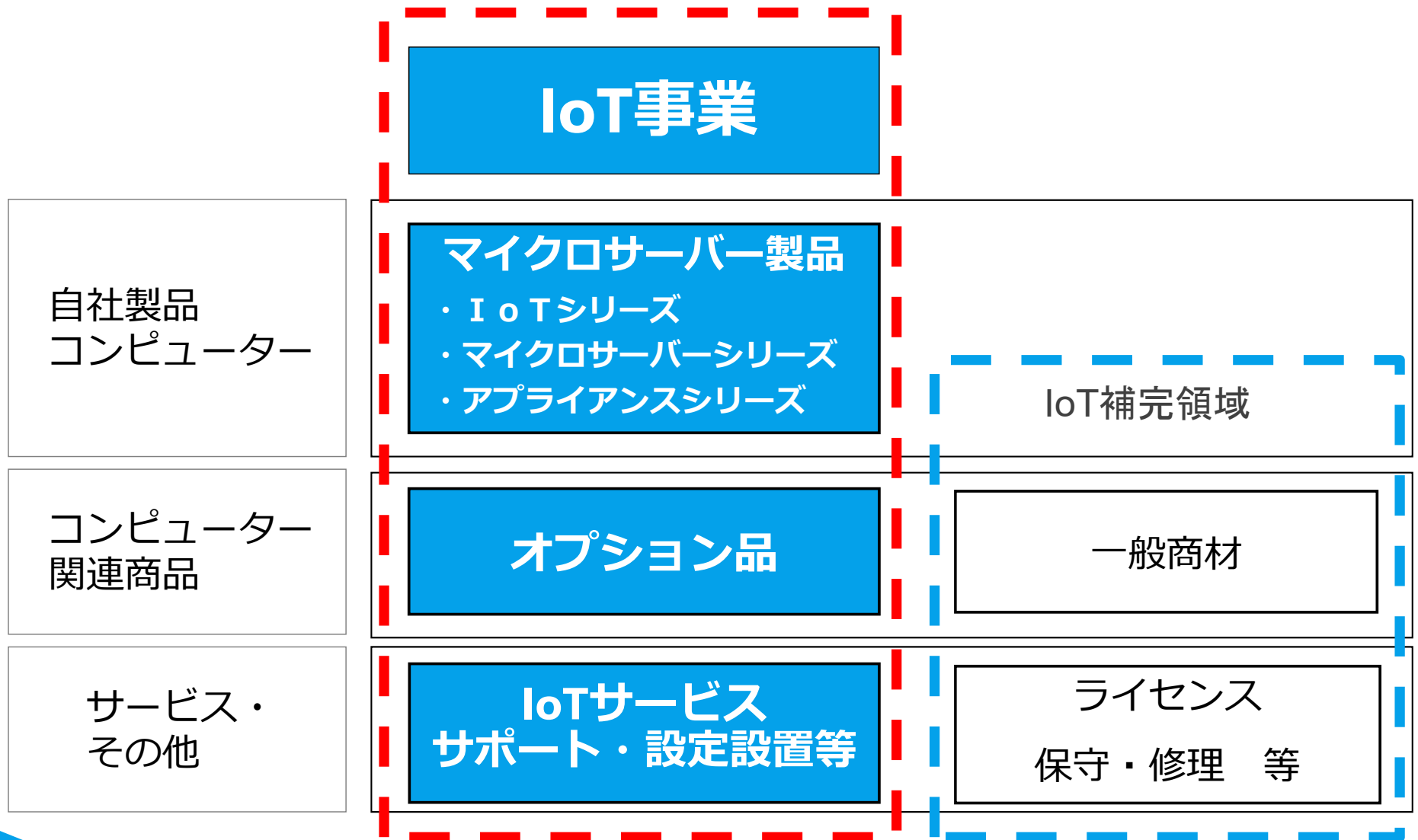
IoT データに取引情報を付加し
データ流通を実現する IoT 取引
データ基盤

DEXPF™

IoTのトラストなデータ流通を実現

クラウドやサービス間を超えて
データ連携可能なIoTデータ基盤

事業構成

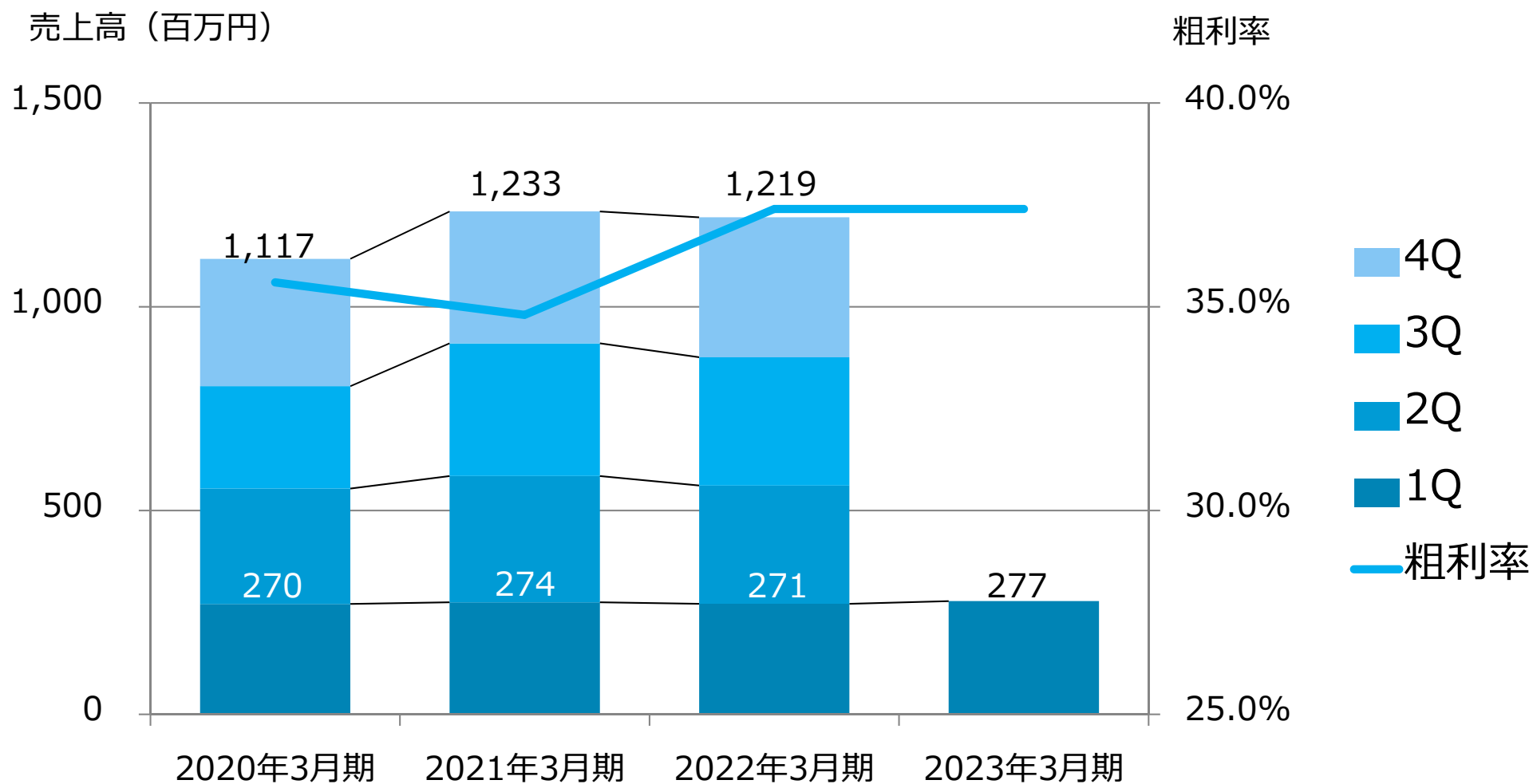


自社IoT事業を核にパートナー各社とのアライアンスでIoTの補完領域を拡充

Financial Results 2022

2022年度の業績

売上高の推移



品目別の状況

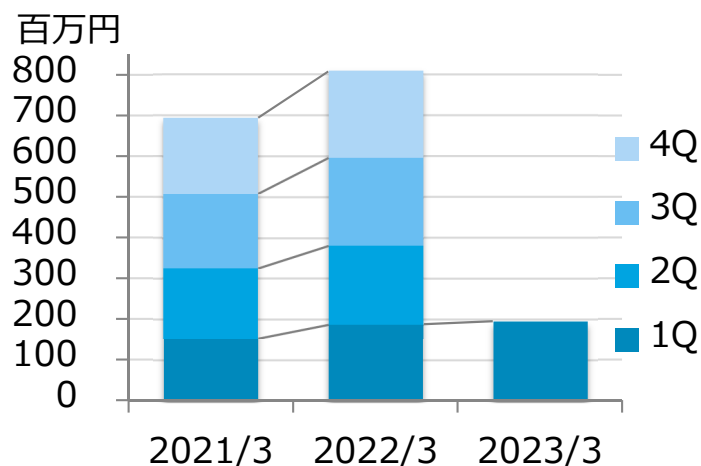
売上高	2022年3月期 1Q		2023年3月期 1Q		前年同期比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	271	100.0	277	100.0	6	2.4
自社製品コンピューター	157	58.2	162	58.5	4	2.9
コンピューター関連商品	58	21.6	54	19.7	△ 3	△ 6.5
サービス・その他	54	20.2	60	21.9	5	10.6

粗利益	2022年3月期 1Q		2023年3月期 1Q		前年同期比	
	金額	粗利率	金額	粗利率	増減額	増減率
粗利益	95	35.4	103	37.4	7	8.2
自社製品コンピューター	48	30.9	53	33.0	4	10.0
コンピューター関連商品	13	23.2	13	24.1	△ 0	△ 3.0
サービス・その他	33	61.4	37	61.1	3	10.0

(単位 百万円未満切捨、%)

IoT事業の推移

IoT事業の売上高



	2022年3月期 1Q	2023年3月期 1Q	前年同期比	
	金額	金額	増減額	増減率
売上高	186	194	7	4.1
マイクサーバー製品	160	164	4	2.7
IoTサービス	11	16	4	43.5
その他サービス	15	13	△ 1	△ 11.4
売上総利益	74	82	7	10.0
粗利率	40.1%	42.4%	+2.3p	

(単位 百万円未満切捨、%)

顧客需要は比較的堅調に推移したが、半導体部品の供給不足の影響により、IoT事業の売上高は前年同期に対してわずかな上昇にとどまる。

損益計算書

	2022年3月期 1 Q		2023年3月期 1 Q		前年同期比	
	金額	売上比	金額	売上比	増減額	増減率
売上高	271	100.0	277	100.0	6	2.4
売上総利益	95	35.4	103	37.4	7	8.2
販管費	139	51.5	123	44.5	△ 15	△ 11.5
営業利益	△ 43	△ 16.1	△ 19	△ 7.1	23	—
経常利益	△ 43	△ 16.1	△ 20	△ 7.4	23	—
当期純利益	△ 45	△ 16.9	△ 21	△ 7.7	24	—

IoT事業の売上高は、わずかな増加にとどまり、一般商材の売上高は減少
全体の売上高は増加

より効率的な組織体制への見直しにより、人件費をはじめ大幅な節減を図り減少

(単位 百万円未満切捨、%)

貸借対照表

	2022年3月		2022年6月		前期末比	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
現金預金	309	41.0	266	36.7	△ 43	△ 14.0
売掛金及び 契約資産	155	20.6	160	22.1	4	3.2
棚卸資産	199	26.4	221	30.5	21	11.0
その他	41	5.4	28	3.9	△ 13	△ 31.6
流動資産	705	93.4	676	93.2	△ 29	△ 4.2
固定資産	49	6.6	49	6.8	—	—
資産合計	755	100.0	725	100.0	△ 29	△ 3.9
流動負債	246	32.7	238	32.8	△ 8	△ 3.5
固定負債	40	5.4	41	5.7	0	1.6
負債合計	287	38.1	279	38.5	△ 8	△ 2.8
純資産合計	467	61.9	446	61.5	△ 21	△ 4.6
負債純資産合計	755	100.0	725	100.0	△ 29	△ 3.9

主な内訳
 ■商品・製品 14百万円
 ■原材料 207百万円

買掛金の減少15百万円

(単位 百万円未満切捨、%)

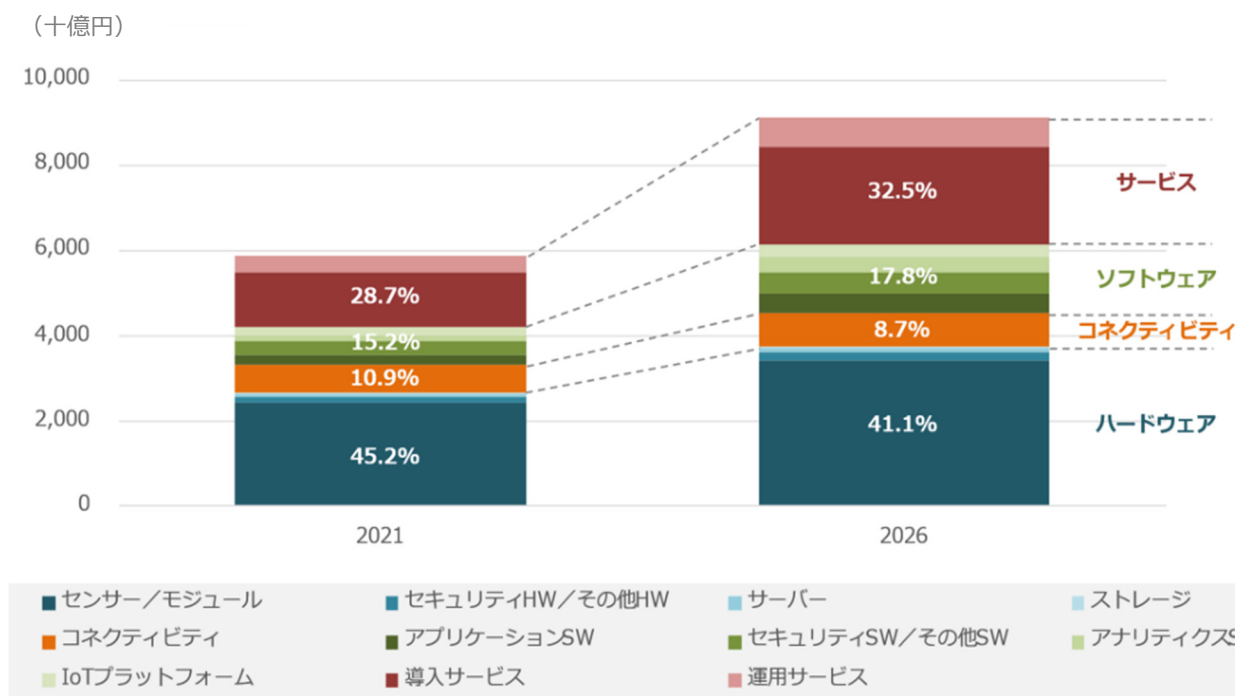
Plat'Home × IoT

事業戦略

市場分析 IoT市場の成長性

2021年の国内IoT市場の支出額は5兆8,948億円の見込みであり、その後年間平均成長率9.1%で成長し、2026年には9兆1,181億円に達する見通し

国内IoT市場 技術別の支出額規模予測と支出額割合、2021年と2026年の比較



IoT向けのソフトウェアやサービスといった技術グループへの支出額の割合が徐々に増加し、2026年には全体の50%以上に達する見込み。

出典：IDC Japanプレスリリース「国内IoT市場の産業分野別/テクノロジー別市場予測を発表」（2022年4月4日）

中期事業戦略 コネクテッドワールドの成長機会は無限

新しいテクノロジーの出現

社会の大きな変化

IoT/分散型台帳技術/AIにより、サイバーワールド（電子空間）とフィジカルワールド（物理社会）の連携がさらに強化される

コロナウイルスによる
社会変化の加速

2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025 . . . 2030

プロダクト投入

- ・IoTゲートウェイプロダクト：OpenBlocks IoT シリーズ
- ・IoTゲートウェイソフトウェア：FW4
- ・マネジメントプロダクト：AirManage 2

サービス型事業モデルへの転換

- ・サブスクリプションの導入
- ・ストック型ビジネスへの開発投資

パートナーアライアンスの拡充

- ・センサーデバイスパートナー
- ・ソリューションパートナー

社会変化によるIoTの必然化

- ・エネルギーや効率化へのニーズ
- ・持続的な社会への要求

IoT市場へのさらなる浸透

- ・市場ニーズに的確に対応した製品供給
- ・都市IoTなど主要用途の開拓・浸透
- ・サービス提供による継続的価値実現
- ・ソフト分野フォーカスによる新たな成長
- ・パートナー協業による顧客課題の解決

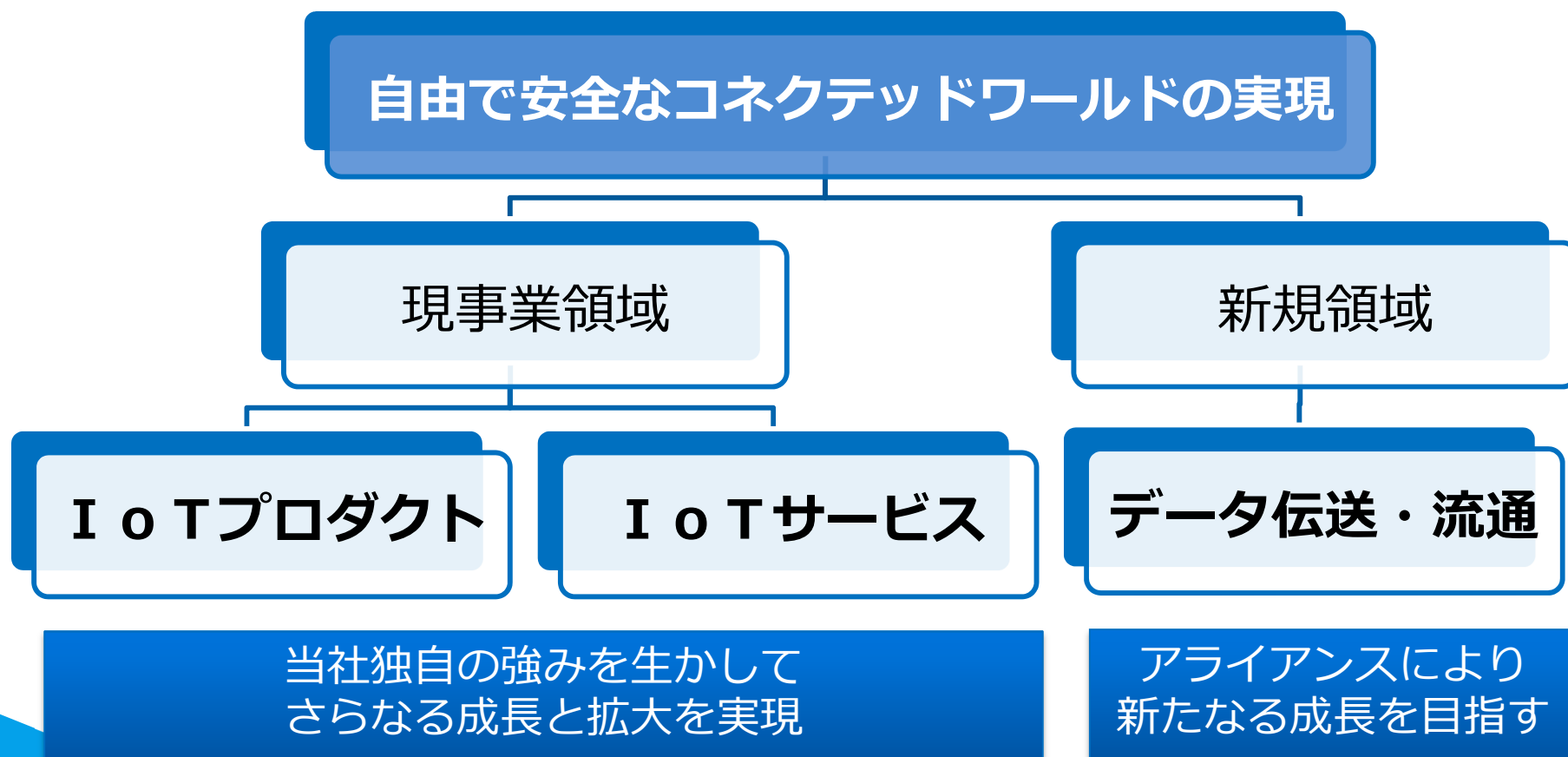
重要ニーズへの対応

- ・IoTデータ流通への対応
- ・分散型台帳技術のIoT利用
- ・IoT製品に付帯したセンサー等の周辺商品の販売強化

自由で安全なコネクテッドワールドの実現

事業展開 独自成長とアライアンス両面での成長

当社は3つの事業を通じて
「自由で安全なコネクテッドワールド」
の実現を目指します。



主要事業 I o T 事業

普及期に入った製品需要に対応した顧客接点の充実

1 ユーザーへの適切なサポート

- 顧客との対話の深化・拡大
- 適切なパートナーを通じたサポートの強化
- 顧客をサポートするパートナー企業への技術・販売支援の充実

2 センサー・デバイス パートナープログラムの拡充

- 適合するセンサー・デバイスの拡充
- センサー・デバイスパートナーとの販売面での協業

3 パッケージ製品によるソリューションの提供

- センサー・デバイスと組み合わせたソリューションパッケージの投入
- アプリケーションを搭載したアプライアンス製品の投入

IoTセンサー・デバイスのパートナーシップ



IoT Sensor Device
Partner Program

デバイス



センサー



IoTソリューション



IoTセンサー・デバイスパートナープログラム

各メーカーの連携により、接続性の高いシステム構築
と、ワンストップによるわかりやすい情報提供
IoT市場の認知・拡大を目指した協業プログラム

- ・エイブリック株式会社
- ・アルプスアルパイン株式会社
- ・英和株式会社
- ・エレックス工業株式会社
- ・EnOcean GmbH
- ・株式会社フォーカスシステムズ
- ・富士通株式会社
- ・富士通コンポーネント株式会社
- ・IPEX株式会社
- ・株式会社インタープロ

- ・アイテック株式会社
- ・因幡電機産業株式会社
- ・丸紅情報システムズ株式会社
- ・ナカヨ株式会社
- ・日本セラミック株式会社
- ・オカベマーケティングシステム株式会社
- ・沖電気株式会社
- ・オムロン株式会社
- ・オプテックス株式会社
- ・パトライト株式会社

- ・ラトックシステムズ株式会社
- ・セイコーインスツル株式会社
- ・ソナス株式会社
- ・トッパン・フォームズ株式会社
- ・東洋エレクトロニクス株式会社
- ・ユニ電子株式会社
- ・ワッティ株式会社

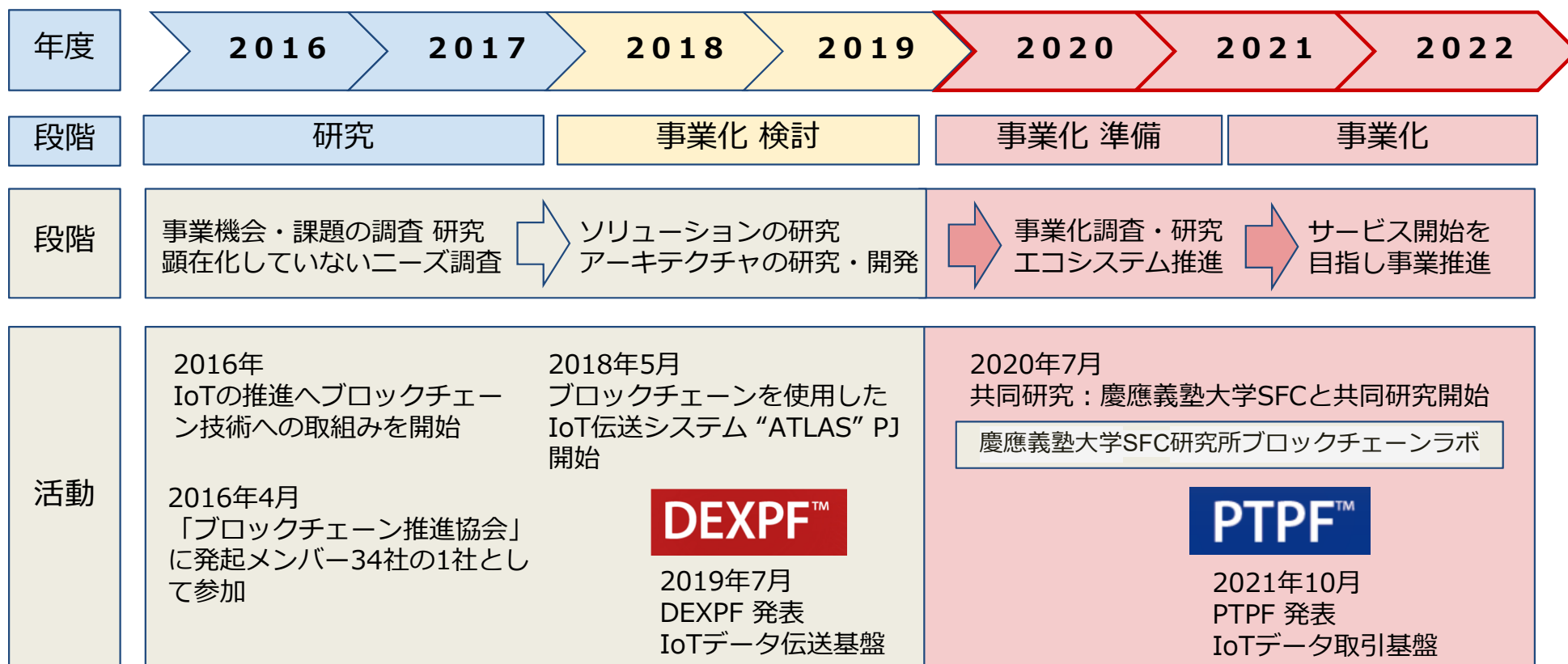
プログラム加入企業 2022年7月現在（敬称略）

※パッケージパートナーを新設

自社のIoTデバイスと当社のOpenBlocks IoTゲートウェイ
などを組み合わせ、各機器の接続などの機器設定がなされ
た状態で販売されるIoTシステムのパッケージ製品を取り
扱うパートナー

新規領域 IoTデータ伝送・流通への取組み

2016年度ブロックチェーン研究開始、2018年度本格的な技術開発を実施
2020年度事業化着手、2021年度から事業化に向けた活動を推進



IoTデータ伝送・交換プラットフォーム

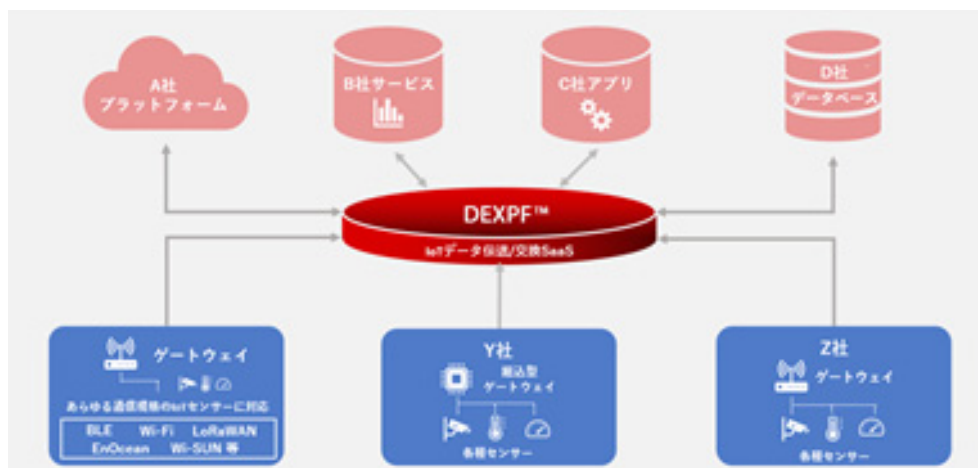
DEXPF™

IoTのトラストなデータ流通を実現

クラウドやサービス間を超えて
データ連携可能なIoTデータ基盤

プラットフォームを超えて任意のデバイスやデータを利用できるデータ伝送基盤

クラウドとクラウド間のデータ連携・利活用を自由に行うことができるクロスドメイン型のIoT基盤であり、様々な事業者や様々なデバイス群の複数ドメインにまたがるIoTデータの利活用が実現



構成例

【採用事例】

DEXPFはダイキン工業株式会社が推進する空間データの協創プラットフォームCRESNECTプロジェクト※において、東京・丸の内に開設する会員制コワーキングスペース『point 0 marunouchi (ポイントゼロ マルノウチ)』のシステムとして採用。

※『CRESNECT (クレスネクト) プロジェクト』は、空調機から得られるさまざまなデータや、各パートナー企業が持つデータやノウハウを蓄積し、活用しながら、空間にまつわる新たな価値やサービスを創出していくためのオープンデータプラットフォームです。

<https://www.plathome.co.jp/product/iot-platform/dexpf/>

ブロックチェーンを使用したIoTデータ取引基盤

PTPF™

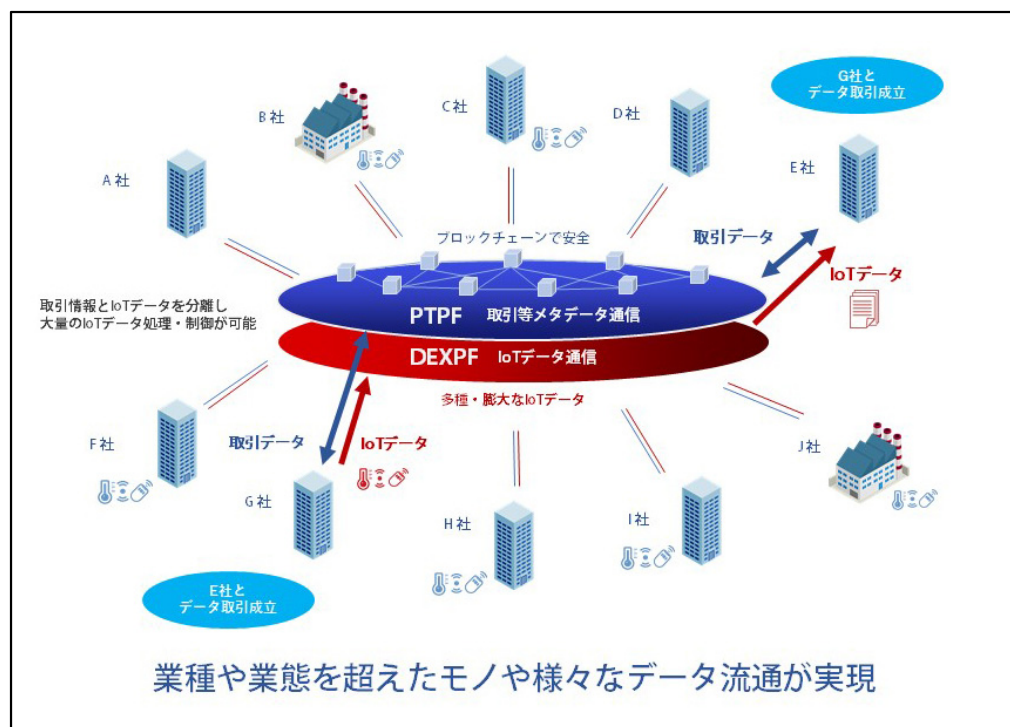
IoT のデータ取引を実現

IoT データに取引情報を付加し
データ流通を実現する IoT 取引
データ基盤

PTPFはブロックチェーンの Protokol として
開発されています。

伝送されるIoTデータに所有権や使用权、価格
など様々な取引情報を付加し、データの行先な
どの制御を可能とし、データと物理的なモノと
の連携を実現した、持続可能な社会を実現する
データ通信が実現できます。

ブロックチェーンを活用し、IoTデバイスをトークン化
することで、多種多様で複雑な権利関係のIoTデータの
取引を可能とした、WEB 3 時代の情報流通を実現する
Protokol 及びデータ取引基盤



<https://www.plathome.co.jp/product/iot-platform/ptpf/>

慶應義塾大学SFC研究所との共同研究

「サイバーフィジカルワールドを実現させるためのプロトコル研究」

慶應義塾大学SFC研究所の村井純教授、鈴木茂哉特任教授と、IoTデータ交換の標準的なプロトコル策定に関する共同研究を継続

IoTの分野では近い将来、各種デバイスにより取得された様々なデータ交換が行われることが想定されているが、そのやりとりを制御するプロトコルには標準的なものがなく、各種データ交換を自由に安全、かつスムーズに行う上で、ハードルになると想定される。

本共同研究は、分散型台帳技術（いわゆるブロックチェーン）を活用した、具体的で実現可能なプロトコルを策定するもので、IoTを扱うトークンを含む標準的なプロトコルを策定することが目標。また、それらが今後のIoTの普及促進に寄与することを目指す。

2020年07月08日 発表

プレスリリース

HOME / プレスリリース / ぶらっとホームと慶應義塾大学SFC研究所が IoTデータ交換の標準的なプロトコル策定に関する共同研究を開始

ぶらっとホームと慶應義塾大学SFC研究所が IoTデータ交換の標準的なプロトコル策定に関する共同研究を開始

印刷される方はこちら

2020年07月08日
ぶらっとホーム株式会社

2020年7月8日、ぶらっとホーム株式会社（証券コード：東証二部6836、本社：東京都千代田区、代表取締役社長：鈴木友康、以下ぶらっとホーム）は、慶應義塾大学 SFC研究所（所長：玉村雅敏、以下SFC研究所）と「サイバーフィジカルワールドを実現させるためのプロトコル研究」を開始致しました。（研究代表者：慶應義塾大学 教授 村井純）

IoTの分野では近い将来、各種デバイスにより取得された様々なデータ交換が行われることが想定されている中、そのやりとりを制御するプロトコルには標準的なものがなく、各種データ交換を自由に安全、かつスムーズに行う上で、ハードルになると想定されます。

<https://www.plathome.co.jp/press-release/20200708-joint-research-keio/>



当社事業による社会貢献

環境への配慮

- 当社は、SDGsが採択される以前から、ISO14001を取得し、喫緊の課題である環境問題に向き合い、その解決に向けて取り組んできた。

SDGsへの取り組み

- SDGsによって目標、ターゲットが具体的に明示されたことを機に、改めて当社事業が社会課題の解決に役立つかを整理した。当社の事業は多くの社会課題と関係し、またその解決の一助となっていることを再認識し、当社事業の進展により社会課題の解決につながることから、全社一丸で取り組む。

今後の取り組み

- 当社事業によりフィジカルワールドとサイバーワールドを結び付け、①より利便性の高い社会を実現すること（地方公共団体・電力会社・交通・物流・公共施設へのサービス提供）、②より安全な社会を実現すること（地方公共団体・教育機関・医療機関・警備・保険・セキュリティ会社へのサービス提供）、③より豊かなくらしづくりを実現すること（ビルマネジメント・ビル設備・照明システム、自動車・エネルギー・各種製造業・建設業へのサービス提供）を目標に取り組む。

Plat' Home

 TECHNOLOGY to serve you.

(注) スライドに記載された当社の見通し、戦略等は将来の市場動向、消費動向、経営環境その他予測不可能な要素により、異なる結果となる恐れを含んでおります。このため弊社は今回発表した内容を全面的に確約する義務を負うものではありません。